

経験を語る談話における接続語の使用

——『わたしのちょっと面白い話コンテスト』

コーパスを資料とした考察 ——

長谷川 哲 子

1. はじめに

日常生活において様々なことを語る中で、自分が経験したことを語る場合がある。自らの経験を聞き手に伝えるためには、一定の長さや構造を持ったまとまりとして語るための口頭表現能力が必要とされる。まとまりを伴う談話形成には談話の結束性が必要であり、結束性に関わる表現形式の一つとして、接続語¹⁾が挙げられる。

本稿では、日本語母語話者と日本語学習者による談話コーパスを資料とし、自分の経験をおもしろい話として語る談話における接続語の使用傾向について考察する。

2. 経験を語る談話について

語ることに関しては、言語行動や非言語行動等、多様な側面からこれまでに非常に多くの先行研究が蓄積されている。

語りの構造を扱っている Labov (1972) では、“narrative” について、以下の

1) 『日本語文法事典』によれば、「接続語になりうるもの」として、「接続助詞を伴う表現」「接続助詞「て」を伴う表現」「接続詞」「接続詞相当語句」の4つが挙げられている (p.349)。以下では、主に「接続助詞」「接続詞」を考察の対象とするため、本稿ではそれらをまとめて「接続語」という語を採用する。

ような定義が見られる。

We define narrative as one method of recapitulating past experience by matching a verbal sequence of clauses to the sequence of events which (it is inferred) actually occurred. (ibid., 359-360)

また、雑談の構造を明らかにしている筒井(2012)においては、

本研究で言う「語り」とは、過去の一回性の経験を話す発話のことであり、その経験の出来事的な側面やその経験に対する評価などを含む。通常は、複数の発話によってなされる一連の発話の形をとる。(ibid.,161)

と規定されており、本稿で考察対象とする経験を語る談話もこうした語りに属するものと考えられる。

さて、第二言語として日本語で経験を語ることは、どのようなタスクとして位置づけられるだろうか。学習者の言語運用能力を測定する指標として広く利用されているCEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) の“Speaking”において、B1のレベルとして、以下のような記述が見られる。

I can connect phrases in a simple way in order to describe experiences and events, my dreams, hopes and ambitions. I can briefly give reasons and explanations for opinions and plans. I can narrate a story or relate the plot of a book or film and describe my reactions.

CEFR(Speaking / Spoken Production:B1)

また、CEFRの考えに基づいて作成された『JF 日本語教育スタンダード』にお

いては、「産出」言語活動内の「経験や物語を語る」カテゴリー内で、A2 レベル、B1 レベルにそれぞれ以下のような記述がある。

異文化体験の出来事について、短い簡単な言葉で友人に話ることができる。
(A2)

計画、準備、習慣、日課、過去の活動や個人の経験を述べることができる。(A2)
自分の感情や反応を記述しながら、経験を詳細に述べることができる。(B1)

A2 レベル、B1 レベルはそれぞれ「基礎段階の言語使用者」、「自立した言語使用者」と設定されているが、ごく大まかに言うならば、これまでの日本語教育で言われている初級から中級にかけての学習者にとらえることができるだろう。そのため、経験を語る言語活動²⁾は言語学習の早い段階から求められるタスクだと考えられる。

3. 先行研究について

本稿の考察対象である、『わたしのちょっと面白い話コンテスト』公式サイト内のコーパスを使用した先行研究として金田(2016)がある。金田(2016)では、同コーパス内の女性関西方言話者の談話を分析の対象とし、おもしろい話の落ちの部分の導入に「ほんで」「たら」のような接続語の使用が特徴的であることを指摘している。

接続助詞「たら」については、加藤(2003)が「たら」の前後件の述語のアスペクトに反映されている情報構造(前景情報、後景情報)に着目した考察を行って

2) 日本語の口頭表現能力を測定するインタビューテストである ACTFL-OPI のガイドライン中では、経験を語ることにについて個別的な記述は見られない。ただし、中級レベル話者に関する記述として、「中級レベルの話者は、主に、日常生活に関連した身近な話題について話をする際、伝えたいことがらを言語を使って創造する能力によって特徴づけられる。このレベルの話者は、自分自身が意図した考え、伝えたいことを表現するために、習ったことを組み替えることができる。」とあることから、日常的に身近に起こったことを語るという経験の語りは中級以上に相当するタスクであると推測される。

いる。そこでは、「たら」について、「発見」「発現」「反応」「連続」の4用法³⁾に分類されているが、これらの用法に共通するものとして「意外性」という心的態度の表示機能を挙げている。さらに、評価を示しつつ話を語る、というタラの性質にも触れ、経験を語る談話で「テ形」「デ」類に次いで「タラ」「ソシタラ」が多く使用される原因としている。

以上の先行研究より、おもしろい話として経験を語る談話において使用される接続語には一定の傾向が見られることが推測される。

4. コーパス内の用例

今回の分析対象とするコーパスは、2008年度より実施されている『わたしのちょっと面白い話コンテスト』⁴⁾参加者により提供された、短くおもしろい話を音声と動画の形式で収録し、字幕（一部は多言語）をつけ、コーパスとしてサイト上で公開されているものである。動画付きかつ字幕付きという点で世界唯一であるだけでなく、「面白い話」という内容の点でも他に類を見ないものとされている。

以下では上記サイトで字幕用テキストデータとして公開されているファイルのうち、第5回（2014年度）、第6回（2015年度）のものを考察対象とする。上記のいずれの回も、応募者を（日本語）母語話者の部と日本語学習者の部に分けており、

3) 加藤（2003:64）における4用法それぞれの説明は、次のとおりである。

発見：前件の行為によって後件の状態が認識される。例）電車に乗ったら、ガラ空きだった。

発現：前件の継続的な状態が存在している状況で後件の事態発生が認識される。例）寝ていたら、部屋に蜂が入ってきた。

反応：前件の動作や変化に反応して後件の動作や変化が起こる。例）大声を出したら、子供が泣いた。

あるいは、前件の動作や変化に無関係な動作や変化が、時間的に連続して後件で生起する。例）店に入ったら、携帯が鳴り出した。

連続：第一の動作・変化に連続して同一主体が第二の動作・変化を起こす（後件述語は「生理的動作・感情・思考・非意図的／受動的動作・可能／不可能」といった無意志的な意味の動作の場合のみ。）例）手紙を出したら、「もうつきまとわないで」と言われた。

4) 詳細は、公式サイト（<http://www.speech-data.jp/chotto/>）を参照されたい。

それぞれのページで公開されているファイル数は、以下の表 1 のとおりである。

表 1 母語話者、日本語学習者のファイル数

	母語話者	日本語学習者	計
第 5 回 (2014 年度)	11	51	62
第 6 回 (2015 年度)	23	51	74
計	34	102	136

今回の考察では、表 1 に示した談話ファイルより、おもしろい話の展開で最も重要と思われる山場⁵⁾（いわゆる落ちに相当する部分）を中心に取り出して考察を進める。そのため、コーパス全体から見た接続語の使用頻度等の統計的処理は行わず、山場に使用された接続語の使用傾向に関する質的な考察を中心に進める。

4.1. 日本語母語話者の用例について

日本語母語話者のテキストにおける談話全体を通じて見られる傾向として、接続助詞「て」を使って談話を展開するという点がある。また、「から」「けど」「たら」のような接続助詞も散見される。接続助詞「て」「たら」による談話展開は、先述の加藤（2003）における指摘と一致する傾向である。

以下に、該当する用例を引用⁶⁾する。

5) 談話中でどの部分を「山場」とみなすかについては、本稿筆者および研究協力者の計 2 名により判断し、2 名の判断が一致したもののみを考察対象とした。

6) 公式サイト上では字幕付き動画が公開されている。以下の字幕データの引用において、同一話者の発話が継続している中で改行されている箇所は、動画中で字幕表示が更新される箇所である。字幕データには動画の経過時間も記載されているが、本稿での用例引用時には省略し、各行冒頭に行数と発話者を表す記号（A、B 等）を示す。A はおもしろい話を語る話し手、それ以外は聞き手を表す。なお、用例内の「@」は、字幕の文字起こしの際に聞き取れなかった箇所の置き換えと推測される。引用した用例中の下線は、本稿筆者による。

1) NS201405⁷⁾

(Aが友人宅に泊まった際、洗面台に顔を洗いに行った場面を語っている)

05A で、顔を洗うときにわたしいつもあの
なんか。

06A ヘアバンドみたいなやつで顔を、がっ
てあの顔全部上げて、髪上げてやるん
ですけど。

07A で、それをやって、で終わって、で友
達が来て友達が顔洗おうとしてて。

08A けどなんか、ヘアバンドを使ってなく
て、もう手濡らしちゃってたから。

09A あ、ヘアバンドあるけど使うって言っ
て。

10A あ、使うけど、もう手濡れたから付け
てって言われて。

11A で一付けてあげようとして。

12A でも、いつも自分だったら、こうヘア
バンド被って、こやってこやって上げ

るんですけど。

13A でもなんか、人にやってあげるでなっ
て、えっ、どうやってやるんだろって
なんか。

14A こうパニックに、なんか軽いパニック
になって。

15A で一、えってなって、顔の、あのまん
前から、あの一、ヘアバンドを。

16A こう、そうこれがヘアバンドだとし
たら、こうこやって。

17A こういうふうに開けて、なんかなんか
顔のまん真ん中。

18A なんかなっちゃって、で、はってなっ
て。

19A 何、これってなって。

20A で、あ、ごめんってなって。

21A ていう感じです。

この談話では、07A から談話の終結直前である 20A まで、終始、接続詞「で」や接続助詞「て」を用いて談話が展開されている。こうした展開は、上記の用例に限らず、コーパス全体にわたって頻用されている。

次に、加藤（2003）に示されている「たら」による談話展開の用例を挙げる。

7) 用例のナンバリングは、「NS201405」のように示す（NS= 日本語母語話者／ JL= 日本語学習者、2014=2014 年度／ 2015=2015 年度、05= 通し番号）。用例前の（ ）内は、それまでの談話内容を本稿筆者が要約したものである。

2) NS2015007

(Aの両親が布団屋からもらった「くまちゃんの靴下」を、姪に履いて見せたら喜ぶだろうと、Aが両親からもらった。)

10A あの一、

11A その時、あの、無職で実家に居候してまして、

12A で、就職の面接が入ったんですが、で、

13A ま、さすがに就職に、あの一、面接に、くまの、

14A くまちゃんの靴下履いてったらあかんやろなとは思ってたんですけども

15A 思ってたんですが、あの一、パンツスーツで、こう足もの甲も隠れるし、

16A 靴も、その、ローファーみたいな、

17A 全部隠れるのやから、問題ないわと思って、

18A ちょうどそのあとにその姪っ子の子守するっていうことで、

19A 姪っ子を喜ばせたい一心でその靴下履いてったん、ですね。

20A でそしたら、面接が和室やったんですね。

21B (笑)

22A で、まさかの和室で、

23A う、最終面接、5人まで残ってたんですけど、ちょっとあ、

24A 全体討論とかしてたんですけど、私だけくまちゃんの靴下で、

25A で、椅子、和室にこう椅子並べて、

26A 討論してて、

27A ま滋賀県なんですけど、滋賀県の将来がどうのこうのとか一生懸命言ってたんですけど、どうしてもま、

28A あとの4人が「こいつには勝ったな。」という、

29B (笑)

30A 顔でこっちを見てましたという話です。

31A 以上です。

この話の山場は、19A～20Aのくだり「姪っ子を喜ばせたい一心でその靴下履いてったん、ですね。でそしたら、面接が和室やったんですね。」である。このような用法の「そしたら」は、加藤(2003)のいう「発現」の用法に相当するものであるが、面接が和室で行われたことが自分の想定と全く異なっていた、つまり、自分にとって非常に意外な事実として認識したということを語っていることが分かる。このような意外性がこの談話をおもしろい話として成立させる重要な要素であり、おもしろい話を語る談話における「たら」の効果的な使用例⁸⁾であると言える。

8) この話者による作品は、その当該回(『わたしのちょっと面白い話コンテスト』第6回)における投票の結果、第1位を獲得している。

3) NS2015002

01A @歳ぐらいの時に、原チャリに乗って
たんですよ。

02A 原付、に、乗っていて。

03A で、一時停止を、しなくて夜に。止
められて。

04A バトカーがそこにいて。で、「ちょっ
とあなた。」

05A あ、すいません。」って乗って。

06A すごく悲しい気持ちになりながら、

07A こう、「はい、住所は？」とか、いろ
いろ言って、答えてたんですよ。

08A で、外を見たら、流れ星が、流れてて、
「はあ・・・」

09A って思ってたんですけど。(笑)

10A で、次の次の日ぐらいに、その時会社
員をしてたんですが、

11A 支社長から、「ちょっと、」

12A 「都市対抗野球あるから、あんた一緒
にいこ、行こうよ。」と言われて。

13A 「あ、はい、行きます。」

14A チケットタダだから「よっしゃー！」
と思って行ったんですけど。

15A その時に新幹線に乗ったんですよ。

16A で、支社長と酒飲んでこう「あー」っ
てなっ、てて、こう横を見たら、

17A なんか見覚えのある男がいて。

18A 向こうも、「えっ」

19B (笑)

20A 「なんか、見たことある」っていう顔
をするんだけどだれだかわからなく

て。

21A 「あれ、でも、何で知ってんだろう」
と思いながら、

22A わからない。わからないと思って。(笑)
なんで@。で、

23B (笑)

24A でも飲んでて、結局その、

25A もう降りる、東京い、着くよみたいな
時に、

26A トイレ、じゃ、行っとうと思ってト
イレ行ったら、

27A 「はあー！あいつだー！」と思い出し
て、

28B (笑)

29A 「あいつだよ、あたしに住所聞いたあ
いつだよ」と思って、

30A もうそのあとはもうこういう目でこ
う、見てて、

31C (笑)

32A 向こうはでもまだおほいだしてなく
て、

33A 「あ、だれだっけなー」みたいな顔し
てるんですけど、私はすごく覚えてて。

34C (笑)

35B (笑)

36A っていう感じでずっと見てました。

37A それは面白かったです。はい。

38B (笑)

39C ちゃんちゃん。(笑)

3) では、26A～27A「トイレ、じゃ、行っとうと思ってトイレ行ったら、「はあー！あいつだー！」」と思い出して、」という箇所、見覚えのある男性の記憶の正体が判明することを語るにより、この談話における山場を形成している。このように、ある出来事に連続して付随的に起こった動作を記述する用法は、加藤(2003)の「連続」の用法と見られるが、談話内では意外性の表現としての機能を果たしている。

4) NS2015022

(A はビルマ語を勉強しており、2年生の時に友人4人と初めてミャンマーに行った。その頃にはある程度ビルマ語が話せるようになっており、満足していた。)

12A で、あの一、このままあともう少しいれたらなあみたいな話もしながら、

13A 最後の夜だったんで、あの一、まあ、

14A そのヤンゴンで一番おいしいと言われる、ま、ビルマ料理店に行って、

15A でーそのビルマ料理のシステムっていうのが、1つそのおかずを、まあ、

16A 便宜的にカレーって訳してるんですけど、そのカレーみたいのを頼んで、

17A あと一、えっと、野菜、な、生野菜のなんかディップみたいなやつと、

18A あとスープ、ちょっと酸っぱ、辛、辛くはないかな、

19A ちょっと酸っぱい感じの玉ねぎとか葉っぱとかが入ってるスープと、

20A あと、お米？

21A この、その、付け合わせとかその周りのやつはもう全部お代わり自由な

んですよ。

22A だからもうその、あ、これ逃したらもう食べる機会ないと思って、もう本当にもう、

23A あの一、下品にならない程度に、一応結構かっこんで食べてたんですね。

24B うーん。

25A でも早く帰らないといけないしな、でも食べたいし、みたいな感じで。

26A で、あでもな、これまたご飯おかわりしたら、ちょっと残してしまいそうだから、

27A 半分だけ欲しい。あでも「半分」っていう単語わからない、みたいな感じで。

28B (笑)

29A でも食べたいみたいな感じでずっと続けて、

30A で、その時にもうめっちゃもう、高ぶって、

31A あーでもなんか言わないとあーいけない、あーってなった時に、

32A あーその、結局その時何を言ったかっ

- ていうと、
- 33A あそうそう、あの一、「ください」っていうのは「ペーパー」って言うんですけど、
- 34A 「半分ペーパー」っていったんですね。
- 35A そしたら本当にちゃんとちょこんて半分だけ出てきて。(笑)
- 36B (笑) へー。
- 37A だからなんか、語学ももちろんその、単語を知らないといけないとかってあるけど、
- 38A なんか勢いとか、その必死さとか、
- 39B うんうん。あー。
- 40A その一時のなんかジェスチャーとかっていうで、
- 41A 意外となんか、伝わるものも、あるんだなあっていうのを、
- 42B あー。ふーん。
- 43A 感じたんですけど、その時のその、
- 44A 何だろう、必死さ、がちよっと、
- 45A 個人的にはツボだったので、1つ面白い話として、面白いかわかんないんですけど。
- 46B へー。
- 47C (笑)
- 48B うーん。

この例では、34A～35A「半分ペーパー」っていったんですね。そしたら本当にちゃんとちょこんて半分だけ出てきて。(笑)」とあるように、日本語で「半分」と言ったところ、「本当に」、つまり実際思いもかけず通じたということを山場に語っている。このように、「そしたら」の後件に思いがけない事実が起こったことを語る場合、加藤(2003)の「反応」の用法に当たるが、先述の用例と同様に、自分にとって意外なことを「たら」を用いて語ることにより、聞き手にとっては、「(笑)」をもって談話の山場と認識されていることが分かる。

4.2. 日本語学習者の用例について

以下では、日本語学習者の用例を挙げる。

日本語学習者のおもしろい話の談話においては、日本語母語話者同様に接続助詞「たら」「て」の使用が散見される。その他にも、「けど」「すると」「そうすると」「それで」「そして」「てから」「でも」「ところ」等、多様な接続語の使用が見られる。これらの接続語使用をめぐる、日本語母語話者で効果的に用いられていた「たら」

の用例をまず検討する。その後、日本語学習者に特徴的な使用傾向として、接続詞の不使用と「そして」の多用例を挙げる。

5) JL2015015

(A はデリー大学で博士課程に在籍しながらカトリック教会の神父をしていた。)

- 05A えーある日、えーま小教区の神父様ですけれども、
06A えーその小教区にはいくつかの準教会というのがありまして、
07A えーまわるのが大変だということで私に、えーですね、ま代わりにやってくれないかと。
08A えー、しかし私はデリーも初めてだし、
09A えーまたその、えー郊外にある、ま、えーある意味ではまー村かもしれないですが、
10A その村のことも、えー、に行く道もわからないという、う、ことだったんですが、
11A えー一応あの一、受け入れて二輪車で行ったんです。
12A で一、行ったらまあ、
13A 道がわからなくて、もともと私が、
14A ね、あの一場所がわからないというのもあって、
15A えー、いくいろいろ聞いていってもわからないので、
16A えー誰かに聞いて見ようと思ったらまあ
17A ある男の子がですね、まー小学生じゃ

ないかなと思いますが、

- 18A えーその辺を歩いてたんですね。
19A それで
20A えーあのその人に、その教会の名前を言って、ちょっと
21A 教えてくれないかと、わかると聞いたらですね。
22A あ神父様ですね、と言って
23A はい、えどうしてわかったのいやだってあの白いスータンのしているからって、ああはいはい。
24A えーと、あそこの教会にミサに行きますけども、道はえーわかると聞いたら
25A わかります、わたしも実は同じところにミサに行きますので。
26A え、乗りましょうかと言って、うんいいですよどうぞ乗って。
27A で、えー乗りました、で一、
28A えー走っていたらですね、まあすぐ近いところだったんですけれども、
29A え、神父様きょうの説教は、というふうにあの質問してきたんですね。
30A で、私は天国に行く道を、ね、についできょう話をするよと言ったらですね、
31A 彼が
32A つぶやいたんですね。

- 33A へえ、教会に行く道もわからないのに。 37A その日は本当にあの、説教は大変だったですね。
34A 私は急ブレーキをかけたんですね。 たですね。
35A うわあって。 38A 以上です。
36A 子どもは怖いなという。

この例では、山場 30A～33A「で、私は天国に行く道を、ね、についてきょう話をするよと言たらですね、彼がつぶやいたんですね。へえ、教会に行く道もわからないのに。」での「たら」使用が見られる。それに先行して、山場に至るまでの展開においても、時間経過に沿った語りに伴って「たら」が複数回使用されている(20A～29A「えーあのその人に、その教会の名前を言って、ちょっと教えてくれないかと、わかると聞いたらですね。あ神父様ですね、と言ってはい、えどうしてわかったのいやだってあの白いスータンのしているからって、ああはいはい。えーと、あそこの教会にミサに行きますけども、道はえーわかると聞いたらわかります、わたしも実は同じところにミサに行きますので。え、乗りましょうかと言って、うんいいですよどうぞ乗って。で、えー乗りました、で、えー走っていたらですね、まあすぐ近いところだったんですけども、え、神父様きょうの説教は、というふうにあの質問してきたんですね。))。このような「たら」の使用は、日本語母語話者の談話にも頻繁に見られるものであり、「たら」の適切な使用が、語りにおけるスムーズで聞き手にとって理解しやすい談話展開に寄与していると言える。

次に挙げるのは、接続詞の使用が見られない例である。

6) JL2015003

- 01A ちょっと、面白い話。 ても賑やかでした。
02A あん、この話は中学校スポーツ大会が行われたときの実話です。 05A はい、位置について用意スタートと選手たちがメロスのように、はしあん飛び出して、走りっている。
03A 次は、男子百メートルレースと、あアナウンサーが放送した。 06A あっ、スパーク第一位になったのは、うちのクラスのA君じゃないかと私が気が付いた。
04A この試合は、あの日一番激しい試合なので、みんなが注目され、運動場もと

- 07A A 君がんばれ、A 君がんばれと、とても喜んで叫んだ。
08A A はここだよ、と私の隣の隣の A 君
- が言った。
09A はい、以上です。

この6) は、01A～09A で完結しており、非常に短い談話である。日本語母語話者の談話例においては、山場で接続語を使用しない用例が観察されなかった。おもしろい話を語る際に、接続語を使用しないことのみが即座に談話の不自然さにつながるわけではないが、時間経過に沿って談話を展開する場合、発話の接続に接続語がほとんど用いられない場合には、唐突な談話終結であるという印象は否めない。このことから、こうした談話においては、何らかの接続語を用いることにより、聞き手にとって理解しやすいものとなることが推測される。

上の用例に見られた接続詞の不使用に加えて、日本語学習者の談話で特徴的に見られた傾向として、接続詞「そして」の使用がある。以下に、「そして」の使用例を挙げる。

7) JL201417

- 01A 最後に、もう一つの面白い夢です。
02A ある夜、夢で、私は、あー、何かいいことをし、あ、したから私は。
03A 賞をもらわな、もらわなければなりませんでした。
04B 夢ですね。
05A はい、残念ながら夢だけです。
06A 夢ばかり。
07A そして、私は選ばなければならないことは二つだけありました。
08A 一つ目は、あー、小さくて、おもしろい、おいしいパンでした。
- 09A 二番目は、うーん、マレーシアのツアーでした。
10A そしてどういうわけか、私はマレーシアのツアーではなくて、私はパンを選びました。
11A パンを。
12B 大変でしょう。
13B なんて。
14A 私は、パンがほんと好きだからです。
15B そうかな。
16A はい。

この用例における「そして」の使用について、談話全体から見てみると、「そして」

が山場の形成や導入に寄与しているというよりも、自分が見た夢を「そして」を用いて時間経過に沿って話していくうちに談話が終結してしまったという印象を与える。そのため、聞き手にとってはどこが山場か分かりにくい展開と見られる。

8) JL201422

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 01A あー私の子どもの頃、あ中学校の頃、 | たちと、の一言いました。 |
| 02A あー私と私の友達と、んー遊園地あー | 10B ジミー。 |
| で、あー遊びました。 | 11A はい、 <u>そして</u> 私たちはイギリスから |
| 03A <u>そして</u> 、あー、イギリス語みたいに、 | あー来ました。 |
| あーぺらぺらつって言い、あー話しま | 12B 子ども。 |
| した。 | 13A はい、あーその話をについてその子ど |
| 04A <u>そして</u> 私の話をあー、小学校あーの子 | もにあー、 |
| どもが聞こえました。 | 14A はなあー、言いまして、 <u>そして</u> その子 |
| 05A あー、 <u>そして</u> その小学校が私たちがイ | どもたちは、私を信じていました。 |
| ギリス人だと言いました。 | 15A とても楽しかったです。 |
| 06A <u>そして</u> 私たちあーこの子どもに。 | 16B どこの子ども。 |
| 07A あー、あー、いろいろな話をイギリス | 17A はい。 |
| のこと、あーイギリスについて、あ話 | 18A 私たち、あー子どもたち、で、うーん |
| しました。 | だからんー大丈夫だったです。 |
| 08B なんで。 | 19B 大丈夫、はい。 |
| 09A あ、あー、私たちあーリッキーマーチ | 20A はい。 |
| ンとジミフローオフィスのあー子ども | |

上記の例において、「そして」の多用が顕著なのは03A～06Aの箇所である。この箇所では文の接続ごとに「そして」を使用することにより、時間的な順序や継起的な事態を表していると見られる。しかし、文のほとんどが「そして」で接続されていることから、談話全体の分量のわりには相対的に「そして」の使用頻度が高くなっている。

9) JL2015001

- 01A はい、じゃあ、ちょっちょっと面白い話です。
- 02A まー、面白いかどうかはわかん、わかんないんですけど、とりあえず。
- 03A あ、まー、たぶん、みんなが似てるようなことが経験することもあるかもしれないけどね。
- 04A ある日、まー、学校に行くとき、その、外に出かけて、ドアをろロックした。
- 05A そして、
- 06A 突然、
- 07A ズボンの中にあのその財布がない。
- 08A あっ、財布がないんだって
- 09A そして、自分の部屋に戻って探しました。
- 10A 大体、まー、いつ、その、
- 11A 一分二分三分たって、す、いつもさが、探せない。
- 12A だんだんだんだん緊張して、あー、や

- ばい、どこにいったらあったんだろう。
- 13A その財布がないと、学校に行かないんだよー。
- 14A え、そして、まー、その中もお金が入るから、とっても緊張した。
- 15A そして、
- 16A 自分に自分の教えて、まー、そー、こーこう話した。
- 17A 落ち着いて、落ち着いて。
- 18A その、出かける前の行動を思い返す。
- 19A そして、出かけて、そして、ドアをロック。
- 20A あれ、ドアをロック。
- 21A 私の鍵は、財布の中にいたはずー、だよーね。
- 22A そして、自分の右手を見て、
- 23A 私は、財布を持ったまま財布を十分ぐらい探しました。
- 24A はい。

この用例の19A（そして、出かけて、そして、ドアをロック。）では、短い発話中にくり返して「そして」が使用されているが、その前後の発話においても「そして」が複数回用いられている。

金（2014）では書き言葉コーパスによる分析を通じて「そして」の多用を指摘しているが、上記9）からは、話し言葉においても日本語学習者が「文をつなげる手段としてとりあえず「そして」を選んで」（金 2014, 277）いるという可能性が示唆される。

10) JL2015024

(話し始める前の挨拶と過去の恥ずかしい話をするという前置き)

05A で、私がまず、また中学、あー中学生のころ、物理いわゆる理科のその授業が大の苦手で、

06A 授業の内容なんてほとんど頭に入らなかったです。

07A ま今でも全然わからないですけど。

08A そのときは、授業のたびに眠くて眠くてたまらな、たま、たまらなかったです。

09A で、そして、ついある中学校三年生のころ

10A あー、私は午後一限目の授業中に、すっかり、あの一落ちてしまいました。

11A そして、十分ほどたったのかな。

12A いきなりあの友達に、おいおい起きてって、あの一起こされました。

13A 目が覚めたらなんと先生が目の前に立っていました。

14A で、そのときの、そのー物理の先生はいわゆるちょっとかたい方で、

15A あまり授業中も冗談言わないし、すごくまじめな人でした。

16A で、先生を前にして、私はあっやべー怒られるでしょう、と思いました。

17A しかし、先生はただ無表情で、これ、という手を出しました、私に向かって。

18A どんな魔がさしたのかわかんないけど、私はそのとき、

19A あー、やった、先生は怒ってないんだ。

20A 先生は私を許してくれたの。

21A ゆる許してくれた。

22A と思ってしまいました。

23A で私も、それはその先生の優しい気持ちにこたえなければいけないーと思って、

24A 私も先生に向かって、これっていう手を出しました。

25A で、そのとき場はしんとしました。

26A そして周りからくすくすという笑い声、笑い声が聞こえました。

27A でもそのときの私は、まだ全然何があったのかわからなかったです。

28A そして、その先生がたぶん十秒ぐらい

29A その姿勢のまま私の目をじーと見て

30A あの教室の前に戻りました。

31A そして黒板の前に立って、

32A えーではこれからフルーミングの右手の法則について説明しまーす。

33A はい、以上です。

上記の10)においても、先の7)～9)同様に、「そして」によって接続された発話の直後に談話自体が終結しており、談話全体においても「そして」の多用が目立

つ。「そして」が書き言葉的な性質を持つ接続詞である⁹⁾ことから、おもしろい話を語るといふ話し言葉の場面で「そして」を多用することは、聞き手にとって何らかの違和感をもたらすと考えられる。

一つの談話内で「そして」を頻繁に用いる傾向は、日本語母語話者の談話例では観察されず、今回の考察対象とした談話の山場相当箇所において、日本語母語話者が「そして」を使用している例は見当たらなかった。

以上、今回分析対象とした談話からは、日本語母語話者においては、先行研究における知見と同様に接続助詞「て」「たら」の使用が観察された。一方で、日本語学習者においては、接続詞の不使用や「そして」の多用が観察される用例があり、この傾向は日本語母語話者の用例には観察されなかった。

このことから、山場における接続語使用の傾向については、日本語母語話者と日本語学習者に一定の差があることが示唆される。

5. 考察

以上では、日本語母語話者、日本語学習者に分けて、自分の経験に基づいておもしろい話を語る談話における接続語使用の傾向を概観してきた。その結果、日本語母語話者と比較して、日本語学習者の用例に見られる傾向の一つとして、接続詞「そして」の同一談話内での頻用が見られることを指摘した。

日本語学習者にとって、接続語は習得すべき文法項目の一つであるが、誤用が多い項目でもある。中でも、「そして」に誤用が多いことについて、市川（2010）では、以下のような理由を挙げている。

その理由としては、どの初級教科書でも最初のほうに導入され、学習者にとって使いやすい接続詞であるためと思われる。単に物事を付け加える添加や、引

9) このことは、日本語母語話者の用例全体（山場以外の部分も含めて）においても「そして」の使用がほとんど見られなかった要因にも関連すると考えられる。

き続いて起こることを表す継起の接続詞として過剰に使用されがちである。

(市川 2010: 258)

また、石黒（2000）では、「そして」を初級で導入すべきか」と題し、日本語学習の初級段階で「そして」をどのように扱うべきかを論じている。その中で、初級段階で「そして」を指導することについて、「そして」が幅広い用法を持つことを挙げ、初級段階での導入の意義を以下のように述べている。

「そして」は用法が幅広い。並列の用法を始め、因果関係（結果、結局）や時間（経過、継起）の用法を備えており、その意味で日本語初級の早い段階で、テ形の導入の補助として使うことができる。（石黒 2000: 35）

一方で、「そして」の機能の分かりにくさも指摘しており、初級学習者にとって「そして」の習得が困難であることを示している。

「そして」は機能がわかりにくい。「そして」が前件と後件を対等かつ順当に結ぶというのは捉えやすいが、「そして」の後には何らかの意味で「決定的」な事態が来るというのは、「決定的」でくられるものが多岐にわたるため、初級の学習者が「そして」の機能を習得するのは必ずしも容易でないと予想される。（石黒 2000:35）

このように初級学習者をはじめとして、日本語学習者にとっては「そして」は習得が難しいとされる。金（2014）が日本語学習者の書き言葉における「そして」の使用傾向について、作文成績の上位群に比べ下位群や中位群が「そして」を多用していることを検証した上で、石黒（2000）、市川（2010）と同様に「そして」の用法の幅広さに言及しながら、以下のように結論づけている。

下位群や中位群に「そして」の使用が多い原因としては、「そして」が幅広い用法を持っているため、下位群や中位群が「そして」のカバーする範囲を広く捉えていることが考えられる。その結果、文をつなげる手段としてとりあえず「そして」を選んでおり、それが多用につながったものと考えられる。

(金 2014: 277)

今回は話し言葉を対象とした用例を考察したが、「そして」をとりあえず使用するという傾向に該当するような用例が複数観察されたことから、「そして」の多用傾向と口頭表現能力との関連については今後検証の余地がある。

上述の先行研究をまとめると、日本語学習者の「そして」について、初級段階で導入される項目とされながらも、幅広い用法を持つがゆえにその習得には困難とされており、特に書き言葉においてはとりあえず「そして」を用いることで結果的に多用する傾向があることが分かる。

このような実態に対して、今回の分析では、話し言葉として経験を語る談話においても、日本語学習者には「そして」を多用する傾向が確認された。作文などの書き言葉に比べて、話し言葉として、日本語学習者が日常の会話場面において「そして」を多用していたとしても、それが日本語の授業等の教室場面でなければ、直接その場で聞き手から明示的なフィードバックを与えられることは少ないと考えられる。このことも今回の談話例中で「そして」の多用が見られた原因の一端ではないだろうか。

さらに、市川（2010）や石黒（2000）にも述べられているように、日本語初級教材において、「そして」は比較的早い段階で導入されている。その際には、

11) きのう松本さんのうちへ行きました。

……どんなうちですか。

きれいなうちです。そして、大きいうちです。

(『みんなの日本語初級 I 第2版』第8課例文)

のように、並列を表す用法の提示が典型的である。

しかし、石黒（2000）が示すように、「そして」の用法は実に多岐にわたる一方で、初級の早い段階で導入する際、その一部しか提示されていない（もしくは、提示できない）。その後、中級や上級段階の教材では、個別の接続語が随時提示されていくのが一般的であるが、その中で、「そして」については、初級段階で導入済み、または既習とみなされ、あらためて「そして」を取り上げ、初級で提示した用法以外の用法や機能についての指導や詳しい説明がなされることはほとんどないのではないだろうか。

本稿では、経験を語る談話に用いられる接続語として、「たら」についても着目して用例を検討したが、接続助詞「たら」については、初級と中級の2段階に分けて扱う教材が見られる。

たとえば、代表的な日本語教材である『みんなの日本語』シリーズでは、初級教材において、

12) 雨がふったら、行きません。

やすかったら、あの店で買います。

（『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版』第25課 練習A）

のような仮定条件を表す「たら」をまず提示している。その続編となる中級教材では、

13) 窓ガラスをふいたら、部屋が明るくなった。

冷たい牛乳を飲んだら、おなかが痛くなった。

（『みんなの日本語中級Ⅰ』第2課 文法・練習）

のように、継起や発見を表す用法が導入される。この課の練習として、

14) 思っていたことと結果が違っていたことがあったら、話してください。

例：この本はあまりおもしろくないと思っていましたが、読んでみたら、とてもおもしろかったです。

(『みんなの日本語中級Ⅰ』第2課 練習2)

という練習問題が提示されている。このように、「たら」の新たな用法の導入に伴って、「思っていたことと結果が違っていたこと」を話すというようなタスクと結びつけた練習を提示することは、経験に基づいておもしろい話を語る談話のように、特定の目的や意図をもった談話における接続語の効果的な使用に向けて非常に重要である。

接続語全般に関して、日本語教育の初級から上級にわたる各レベルにおいて、接続語を取り上げて系統的に提示される機会としては、アカデミックライティングのような書き言葉の指導が考えられる。その際に学習者に対して、個別の用法だけではなく、談話内での機能や、話し言葉と書き言葉というジャンルの違いについても明示的に指導する必要がある。

6. まとめ

以上、本稿では『わたしのちょっと面白い話コンテスト』コーパスを資料とし、おもしろい話として経験を語る談話における山場で使用される接続語に関する考察を行った。その結果、日本語母語話者と日本語学習者に使用傾向の違いが見られることを指摘した。特に、日本語学習者の使用傾向として、「そして」の多用が特徴的であり、この傾向は日本語母語話者には見られなかった。

その背景として、接続語に関する導入や指導の影響が推測される。たとえば、「そして」については、「そして」は初級での導入に検討を要する文法項目であるという先行研究の知見を生かすこと、また、ジャンル（話し言葉／書き言葉）による使い分けに対する意識が必要であることを指導に反映させることが求められる。

さらに、接続語の談話内での使用に関して、初級段階で前後の一文レベルの接続や意味関係を扱う用法を提示するだけにとどまらず、接続語を談話内で適切かつ効果的に用いることができるように、接続語の用法とその機能を果たすタスクとの融合を意識した練習を行うことの有用性、重要性が意識されるべきであると考える。

参考文献

- 石黒圭 (2000) 「「そして」を初級で導入すべきか」『言語文化』37. 27-38.
- 市川保子編著 (2010) 『日本語誤用辞典 外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』スリーエーネットワーク.
- 加藤陽子 (2003) 「日本語母語話者の体験談の語りについて—談話に現れる事実的な「タラ」「ソシタラ」の機能と使用動機」『世界の日本語教育』13. 57-74.
- 金澤裕之 (2008) 「第五章 ナル的表現」『留学生の日本語は、未来の日本語 日本語の変化のダイナミズム』ひつじ書房. 174-187.
- 金田純平 (2016) 「笑い話における言語・非言語行動の特徴—関西在住の女性について」、研究集会「プロフィシェンシーと語りの面白さ」第2回研究発表 (「民間話芸調査研究「面白い話コンテスト」の国際的展開による音声言語データの共有化」研究集会)
- 金蘭美 (2014) 「「YNU 書き言葉コーパス」における日本語非母語話者の接続詞の使用—「そして」の多用に着目して—」金澤裕之編『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房. 267-286.
- 国際交流基金「みんなのCan-do サイト」
<https://jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do> (最終アクセス日: 2017/01/18)
- スリーエーネットワーク (2008) 『みんなの日本語中級 I 本冊』スリーエーネットワーク.
- スリーエーネットワーク (2012) 『みんなの日本語初級第2版 本冊』スリーエーネットワーク.
- 筒井佐代 (2012) 『雑談の構造分析』くろしお出版
- 日本語文法学会 (編) (2014) 『日本語文法事典』大修館書店
- 橋本直幸 (2015) 「第4章 書き言葉コーパスから見た文法シラバス」『現場に役立つ日本語教育研究1 データに基づく文法シラバス』くろしお出版. 67-86.
- 『わたしのちょっと面白い話コンテスト』公式サイト
<http://www.speech-data.jp/chotto/> (最終アクセス日: 2017/01/18)
- ACTFL (2012) ACTFL Proficiency Guidelines 2012
<https://www.actfl.org/sites/default/files/pdfs/public/>

- ACTFLProficiencyGuidelines2012_FINAL.pdf (最終アクセス日：2017/01/18)
- ACTFL (2012) ACTFL Proficiency Guidelines 2012, Japanese, スピーキング
<https://www.actfl.org/publications/guidelines-and-manuals/actfl-proficiency-guidelines-2012/japanese/> スピーキング #intermediate (最終アクセス日：2017/01/18)
- Council of Europe (2001) Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment
http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Source/Framework_EN.pdf (最終アクセス日：2017/01/18)
- Labov, William (1972) The transformation of experience in narrative syntax. *Language in the Inner City: Studies in the black English vernacular*, 183-259. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.